



瀬田の丘

創刊 1973 年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



主日の説教

今日のみことば

復活の第 4 主日 A 年 (2026 年 4 月 26 日)

主任司祭 小西広志神父

第一朗読：使徒言行録 2 章 14a、36 — 41 節

第二朗読：ペトロの手紙一 2 章 20b — 25 節

福音朗読：ヨハネによる福音書 10 章 1 — 10 節

【わたしは……である】

復活節も後半に入りました。今週と来週の福音朗読でイエスさまは、「わたしは……である」と仰せになります。『ヨハネによる福音書』にはイエスさまがご自分のことを語る際に「わたしは……である」あるいは「わたしである」という箇所がたくさんあります。少し見てみましょう。

わたしはいのちのパンである (6 章 48 節)。

わたしは世の光りである (8 章 12 節)。

わたしは門である (10 章 9 節)。

わたしはよい牧者である (10 章 9 節)。

わたしは復活であり、いのちである (11 章 25 節)。

わたしは道、真理、いのちである (14 章 6 節)

これ以外に、「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である」(15 章 1 節) もあります。さらに「わたしである」と仰せになっているのは 8 章 24、28、58 節と 13 章 19 節があります。それ以外にもユダが引き連れてきた兵士や祭司長たちとの対話の中でもイエスさまは「わたしである」と答えています (18 章 5、6、8 節)。

「わたしは……である」、あるいは「わたしはある」という言い方はイエスさま独自のものです。そして、これは『出エジプト記』の中で神さまがご自分を現すときの言葉と同じです (出 3 章 13 — 14 節 フランシスコ会訳)。その箇所を読んでみましょう。

13 モーセは神に言った、「わたしがイスラエルの子らの所へ行って、彼らに『あなたたちの先

祖の神が、わたしをあなたたちのもとへ遣わされた』と言い、彼らが『その名は何というのか』とわたしに聞いたとき、何と答えましょうか。14 神はモーセに仰せになった、「わたしは『ある』ものである」。また仰せになった、「イスラエルの子らに言え、『わたしはある』という方がわたしをあなたたちのもとへ遣わされた』と」。

「わたしはあるものである」というのが神さまの自己紹介です。イエスさまもまた、ご自分を現す時にこの言い方を用いました。イエスさまが神さまから遣わされた神の子であることがわかる表現です。そして「わたしは……である」と仰せになって、もっと分かりやすくご自分のことを語るのです。今日の福音朗読ではイエスさまが門であると自己紹介しています。

今日の福音朗読箇所を段落に分けると次のようになるでしょう。

- 1 「羊の門」 のたとえ (1 – 3a 節)
- 2 「羊飼い」 のたとえ (3b – 5 節)
- 3 「わたしは羊の門である」 (7 – 10 節)
- 4 「わたしは良い羊飼いである」 (11 – 18 節)

第2段落と第3段落の間に「イエスは、このたとえをファリサイ派の人々に話されたが、彼らはその話が何のことか分からなかった」(6節)とありますから、最初にふたつのたとえ話をしたにもかかわらず、イエスさまのことがファリサイ派の人々には理解できなかったのでしょう。そこで、「わたしは……である」と、ご自分のことを堂々と明らかにしたのでしょう。

今日の福音朗読はパレスチナ地方での羊を飼う生活が背景にあります。朝、羊飼いたちは主人から託されている羊たちを囲いの中から連れ出し、緑の牧草へと導き、それを食べさせ、運動させます。また、水の流れへと羊たちを導き、渴きをいやさせます。そして夕方には必ず主人の囲いへと連れ戻してきます。このように主人から正しく委託された羊飼いは囲いの門から堂々と入り、自分の羊の名前を一頭一頭呼び、連れ出して、先頭を歩きます。羊たちもその声を知っていますから後をついていきます。しかし、主人から頼まれていない羊飼いは門からではなく、他の所を乗り越えてくると言われています。

行事のお知らせ

5月31日(三位一体の主日)：マリア祭(ミサは10時30分より) 福島野菜販売

6月7日(キリストの聖体)：初聖体(ミサは9時30分より)